

ヲ會同商定ス

然ルニ其後一、九〇四年(光武八年六月十五日)韓國咸鏡北道交界官崔南隆同金炳若及陸軍參領金命煥ハ清國補用知府延吉廳理事撫民府陳作彥及吉強軍馬步全隊都聞府胡殿甲ト白頭山以東ニ關スル邊界善後章程十二ヶ條ヲ調印シ其中一二通商ニ關スル事宜ヲ協定セルモ兩國ノ全境界ニ涉ル通商章程ニ至ツテハ未タ之ヲ締結スルノ運ニ至ラス只明治三十八年十二月二十二日我特派全權大使外務大臣小村男及内田公使清國欽差全權大臣慶親王、瞿鴻機及袁世凱等ト滿洲ニ關スル日清條約ノ締結ヲ協議スルニ當リ其附屬協約第十一條ニ於テ滿韓國境貿易ニ關シテハ相互ニ最惠國ノ待遇ヲ與フヘキ旨ヲ約定セシコトアルノミ依テ此際間島問題ノ解決ト共ニ兩國間ノ陸路通商章程ヲ協定スルハ最モ機宜ニ適スト思考ス

明治四十二年四月調査

清國露國間ノ境界並ニ通商ニ關スル條約

目次

清、露境界並ニ通商ニ關スル條約成立ノ由來

甲、境界條約ノ成立ニ付	一
(一) 滿洲方面	一
(二) 哈克圖方面	二
(三) 西北方面	三
乙、通商條約ノ成立ニ付	五
第一、尼布楚條約(滿洲及西比利亞) (康熙二十八年)	九
第二、清露陸路貿易ニ關スル協商 (康熙三十二年)	一〇
第三、恰克圖境界通商條約(蒙古及西比利亞) (雍正五年)	一一
附屬、哈克圖境界通商條約追加條款 (乾隆三十三年)	一二
第四、「グルヂヤ」通商條約 (伊犁並ニタ) (咸豐元年)	一三
第五、愛暉條約(滿洲及西比利亞) (咸豐八年)	一五
第六、天津條約(一般通商條約) (咸豐八年)	一六

第七、北京追加條約(天津條約ノ補款) (咸豐十年)	一七
第八、清露陸路貿易ニ關スル北京協約(同、治元年訂結陸路通商章程)	二二
附則「露國續增稅則」	二四
第九、「チユグチヤグ」議定書(勘分西北界約) (同、治三年)	二五
第十、清露陸路貿易ニ關スル北京改約 (同、治八年改訂陸路通商章程)	二七
第十一、露都條約	三一
甲、伊犁事件ニ關スル露都條約 (光緒七年中俄改訂條約)	三一
乙、清露陸路貿易ニ關スル露都改約 (光緒七年改訂陸路通商章程)	三四
第十二、鐵道貿易ニ關スル條約	三八
甲、東清鐵道敷設ノ由來	三八
乙、露清議訂北滿洲稅關試辦章程	四〇
丙、滿洲里 綏芬河 兩驛清國稅關暫行試辦章程	四一

清露境界並ニ通商ニ關スル條約成立ノ由來

甲、境界條約成立ニ付

(一) 滿洲方面

十七世紀以來露國ハ頻リニ東方ノ遠征ヲ試ミ其後半期ニ至テハ既ニ黑龍江沿岸一帶ノ地ヲ其掌中ニ收メントセリ依テ康熙帝ハ之ヲ憂ヒ一、六八二年ヨリ畧ホ準備ヲ整ヘ漸次黑龍江下流ニ出沒スル露人ヲ追退シ同八十四年ニハ大舉シテ當時露人カ占據セシ雅克薩ヲ進撃セシメタリ之ヨリ兩三年ノ間雅克薩ハ彼我ノ爭地トナリシカ露兵ノ勢漸ク挫折スルニ及ントテ露帝「ペートル」ハ「ゴローツイン」ヲ全權大使トシテ和議ヲ結ハントシ前後兩回急使ヲ北京ニ發シ戰鬪ヲ中止センコトヲ請フ清帝之ヲ許シ内大臣索頗圖等ヲ全權大使ニ任命シ一、六八九年(康熙二十八年)ヲ以テ尼布楚ニ於テ和議條款六條ヲ締結セシメタリ本條約ニヨリ外興安峯格爾必齊河及頗爾古納河ヲ以テ境界トナスコトニ決定シタレハ黑龍江一帶ノ地ハ全ク清國ノ領土ニ復歸シ露人ハ復東海ニ通スル大航路ヲ利用スル能ハサルニ至リ且ツ其占有セシ雅克薩ヨリハ要塞住屋ヲ撤去シ之ヲ清國ニ還付セサルヘカラサルニ至レリ露國ノ不面目モ亦極マレリト云フヘシ

尼布楚條約

康熙帝ハ當時屯田兵ヲ該地方ニ配置シ嚴ニ北寇ニ備フル所アリシモ其後諸嗣帝ニ至リテハ更

愛理條約

ニ意ヲ茲ニ注クモノナク遂ニ十九世紀ノ半頃ニ至リ露國東部西比利亞總督「ムラヴィエフ」ハ其隙ニ乘シ尼布楚條約ヲモ顧ミス漸次南方ニ下リ黑龍江ノ沿岸一帯ヲ其管轄ニ歸スルニ至レリ然ルニ當時清國ハ内長髮賊ノ亂アリ外英軍ノ攻撃ヲ受ケカチ北方ニ注クノ違ナカリキ依テ露國ハ此機ヲ利用シ屢々清國ニ迫ルニ境界確定ノコトヲ以テシ遂ニ一八五八年(咸豐八年)ヲ以テ黑龍江將軍奕山トノ愛理條約ニ締結セリ本條約ニヨリ露國ハ黑龍江以北ノ地ヲ全握シ烏蘇里河以東海岸ニ至ルノ地ヲ以テ共有トナシ且ツ黑龍江、松花江及烏蘇里河ノ航行權ヲ獲得セリ

北京追加條約

抑モ烏蘇里河地方ヲ以テ殖民地トナサンコトハ露國積年ノ希望ナリシモ清國ノ容易ニ之ヲ承諾セサル結果不得已右愛理條約ニヨリ一時之ヲ共有ノ下ニ置キ漸次其實權ヲ收メントセリ然ルニ露國ハ獨リ其意ヲ此地ニ恣ニスルヲ得サルヲ以テ常ニ虎視眈々之ヲ獨占スルノ機會ヲ期待セシカ一八六〇年(咸豐十年)會々英佛同盟軍大舉シテ天津ヲ攻撃シ進ンテ北京ヲ陥ルルニ際シ北京駐劄露國公使「イグナチエフ」ハ好機乘スヘキトナシ兩者ノ間ニ立ツテ大ニ調停ノ勞ヲ執リ和議ヲ成立セシメタリ斯クテ清國朝野ハ大ニ露國ヲ德トセルニ乘シ「イグナチエフ」ハ烏蘇里地方ノ讓與ヲ請求シ清國ハ之ヲ拒ムニ忍ヒス直ニ其請ヲ容レ同年北京ニ於テ天津條約ノ補款トシテ追加條約ヲ締結セリ是ニ於テ乎露國ハ烏蘇里河以東ノ地ヲ其版圖ニ歸シ南ハ遠ク朝鮮ニ達シ東海ニ浦鹽斯德ナル良港ヲ建設スルニ至レリ

(二) 哈克圖方面

恰克圖境界通商條約

露清間ノ東方境界ハ尼布楚條約ニヨリ大體確定セラレ兩國ノ貿易モ亦同條約及一、六九三年ノ協商ニヨリ畧ホ定マリタリ然レトモ露國ノ移住民益々東漸シ隨テ兩國民ノ交通益々繁チ加フルニ至リテ前條約及協商ハ尙不備ノ點少カラス是ニ於テ「ピートル」大帝ハ使節ヲ北京ニ派シ康熙帝ニ條約改正ヲ請求セシメシモ帝ハ之ニ應ヘス嗣テ一、七二七年露國「カダリン」女帝ハ更ニ「ヴラザスラヴィツナ」ヲ使節トシテ北京ニ派遣シ再ヒ條約改正ヲ請求シ且ツ蒙古ノ境界ヲ議定センコトヲ希フ清國ハ北京ニ於テ外臣ト條約ヲ締結スルハ例規ニ反ストナシ使節ヲ布拉河(BC)上ニ退カシメ此處ニ於テ清國全權「ヤビナ」等ヲシテ露使ト恰克圖境界通商條約ヲ締結セシム本條約ニヨリ恰克圖ヲ中心トシ其東西ニ於テ西比利亞ト蒙古トノ境界ヲ定メ東ハ額爾古納河岸ニ達シ西ハ「シヤビナイダバガン」(或ハ「シヤバングバガン」)嶺ニ至ル境界ヲ劃定ス

(三) 西北方面

露國ハ「トルキスタン」地方ヲ侵畧シテ漸次清國ノ伊犁方面ト接壤セシヨリ彼我ノ間境界ヲ確定スルノ必要生シ一、八五八年(咸豐八年)ノ天津條約ニ於テ兩國境界ノ未定部分ノ劃定ヲ約シ之ニ基キ一、八六〇年(咸豐十年)ヲ以テ北京ニ於テ追加條約ヲ締結シ其内東方滿洲方面ニ於ケル境界ヲ劃定スルノ外尙從來未定ナリシ西北方面ノ境界劃定ニ關スル原則ヲ定メ兩國ノ境界ハ其間ニ介在スル山脈ノ方向、大河ノ流或ハ現存スル清國境界哨所ヲ標準トシテ之ヲ劃定スルコト、ナシ追テ兩國ヨリ員ヲ派シ勘界立標スヘキ旨約定セリ其後一、八六四年(同治三年)

北京追加條約

チユグチ
ヤグ議定
書

兩國勘界委員ハ右原則ニ基キ一、七二七年ノ哈克圖境界通商條約ニ基キ建立セル最終ノ燈明
台タル「シヤバンダバカ」嶺ヨリ浩罕ノ邊界ニアル葱嶺ニ至ル兩國ノ境界綫ヲ明確ナラシムル
ノ目的ヲ以テ塔城ニ於テ清國勘員西北界大臣明誼及「クルヂヤ」駐劄露國總領事「ザカロフ」ノ
名ヲ以テ境界地名ヲ記載シ且ツ境界事務處辦章程ヲ規定スル一議定書ヲ調印セリ所謂勘分西
北界約即是ナリ右議定書ニ基キ同治八年七月科布多立界大臣奎昌ハ露國立界大臣巴布闊福ト
會勘立標ノ上科布多界約ヲ定メ翌九年七月烏里雅蘇台大員榮全ハ露國分界大臣ト烏里雅蘇台
界約ヲ定メ又同年塔爾巴哈台立界大臣奎昌ハ露國立界大臣穆魯木策傳ト塔爾巴哈台界約ヲ定
メタリ(以上三界約ハ專ラ境界地ヲ記載スルニ止マルカ故本文中ニハ之ヲ略セリ)

右界約ニ於テハ露國ハ未ダ清國境界内ニ侵食スル所ナカリシカ會々長髮賊ノ中原ヲ擾亂セル
際西域ノ回教徒亂ヲ起シ浩罕、喀什噶爾等ノ地方モ亦大ニ亂レタルニ乘シ露國ハ伊犁一帯地
方ヲ占領シタリ是レ實ニ一、八七一年(同治十年)ノ事ナリキ然レトモ當時露國ハ伊犁地方ノ
清國領タル事實ヲ蔑視セス清國政府ニ通告スルニ占領ノ一時的ニシテ同政府ニシテ變亂ヲ鎮
定スルニ至ラハ直ニ之ヲ還付スヘキ旨ヲ以テセリ依テ清國政府ハ左宗棠等ヲシテ天山北路ヨ
リ喀什噶爾地方及天山南路ヲ鎮定セシメ右占領地ノ還付ヲ露國公使ニ請求セリ露國公使ハ固
ヨリ此請求ヲ拒マスト雖トモ種々ノ條件ヲ提出シテ容易ニ承諾セス是ニ於テ乎清國政府ハ更
ニ崇厚ヲ辦理全權大臣トシテ露都ニ派遣シタルニ崇厚ハ政府ノ内訓ニ反シ利益ナル條約ヲ
締結シテ歸國シタルヲ以テ清國政府ハ直ニ該條約ヲ破棄スルト同時ニ崇厚ヲ獄ニ投シ死刑ヲ

伊犁事件
ニ關スル
露都條約

宣告セリ露國ハ大ニ此措置ヲ怒リ直ニ兵ヲ國境ニ出シ艦隊ヲ支那海ニ送り戰爭ヲ以テ事ヲ決
セシトセリ清國ニ於テモ當時主戰論大ニ勢力ヲ占メシカ「ゴルドン」將軍等ノ忠告ニヨリ更ニ
平和ノ交渉ニテ右條約ヲ修正スルコト、ナリ會紀澤ヲ露都ニ派シ一、八八一年(光緒七年)ヲ
以テ伊犁事件善後條約二十條ヲ協定セシメタリ本條約ニヨリ一時露國ノ占領ニ歸シタル伊犁
地方ハ再ヒ清國ニ還付セラレ只其西部ハ露國ニ歸化シタル清國人ノ住所トシテ露領ニ編入ス
ルコト、ナシ其他一、八六四年(同治三年)協定塔城議定書ニ規定セシ境界ニ少シク變更ヲ加
ヘタリ是ニ於テ中央亞細亞ニ於ケル清露兩國積年ノ騷亂ハ一先ツ其終ヲ告ケヌ

(參照) 特種條約彙纂說明ノ部
約差分類輯要卷二九上下

乙. 通商條約ノ成立ニ付

露清兩國ノ間ニハ一、六五三年(順治十年)迄何等交際貿易ノ關係ナカリシハ史乘ノ證明スル
所ナリ其後明ノ末葉永明王ノ時代ヨリ露國人ハ始メテ蒙古人ト親密ナル交際ヲ結フニ至レリ
爾來兩民族ノ交際貿易ハ何等ノ制規ヲ自由ニ行ハレタリシカ一、六八九年(康熙二十八年)締
結尼布楚條約ハ始メテ其間ニ大體ノ制規ヲ設ケ(一)兩國民ハ各其國境ヲ踰ヘテ勝手ニ他ノ領
内ニ入ルヲ得ス(二)只旅行免狀ヲ有スルモノ、ミ自由ニ越境行商スルヲ得ルコト、ナレリ而
シテ右條約ニテハ何等行商ノ區域ヲ定ムルコトナカリシモ初メハ僅ニ西北利亞蒙古間ノ國境

尼布楚條
約

露清陸路貿易ニ關スル協約

貿易ニ止マリキ

次テ四年ノ後一、六九三年「ペートル」大帝ハ使節ヲ北京ニ派遣シ康熙帝ニ請フテ支那本部トノ交易ニ關シ協商ヲ締結セシメ露國商隊ノ北京行商ハ三年ニ一回ト定メ其員數ヲ二百人以下トシ北京滞在ハ八十日以内ニ限り而シテ右貿易ニ對シテハ特ニ納稅ヲ免除スルコト、ナセ

(此協商ニ付テハ未タ公文書ヲ入手セサルニヨリ暫ク疑フ存ス)

恰克國境界通商條約

露清間ノ境界貿易ハ尼布楚條約及一、六九三年ノ協商ニヨリ略ホ規定セラレシモ露國ノ移住民益々東漸シ隨テ兩國民ノ交通益々繁テ加フルニ至リ前條約及協商ハ尙不備ノ點少カラス是ニ於テ露國ハ一、七二七年「ウラヂスラツイツチ」ヲ使節トシテ北京ニ派遣シ所謂恰克圖境界通商條約ヲ締結セシメタリ同條約ニヨリ前記協商ニ規定セル商隊ニヨル貿易ノ外恰克圖及尼布楚ヲ一般通商場トシテ開放シ且ツ北京ニ一露國寺院ヲ建設シ六名ノ留學生ノ滯京ヲ許セ

恰克國境界條約追加條款

次テ一、七六八年(乾隆三十三年)ニ至リ右條約中ノ誤謬ヲ正シ欠點ヲ補フ爲メ一追加條款ヲ協定シ兩國々境上ニ於ケル脱走竊盜其他犯罪人ノ處罰方法ヲ規定セリ是ヨリ先キ乾隆帝カ天山地方ヲ併セタル後モ尙伊犁地方ニ叛亂止マサリシカ一、八二七年清軍「カシユガル」ヲ陷レシヨリ其軍常ニ勝利ヲ得遂ニ其首魁ヲ捕ヘ北京ニテ斬殺シ反亂一時平定セントセリ時恰モ露國人ハ頻ニ中央亞細亞ヲ經營シ遂ニ伊犁ノ谷間ニ向ヘリ是ニ於テカ即

クルヂヤ通商條約

愛渾條約

天津條約

北京追加條約

同治元年訂結陸路通商章程

十一、八五一年(咸豐元年)兩國人ノ貿易關係ヲ規定スル爲メ「クルヂヤ」通商條約ノ成立ヲ見ルニ至レリ本條約ニヨリ伊犁及塔爾巴哈台ノ兩市ヲ開放シ毎年五月二十五日ヨリ十二月十日迄一定ノ通路ニヨリ同地ニ赴キ自由免稅貿易ヲナスコトヲ許シタリ次テ露國ハ愛渾條約ニヨリ外興安嶺以南黑龍江ニ至ルノ地ヲ獲得シ同江及松花江烏蘇里河ノ航行權ヲ得且ツ上記三河沿岸ニ住居スル露清兩國人ノ交易ヲ許シタリ次テ一、八五八年(咸豐八年)ノ天津條約ニヨリ清國ハ外國官吏ヲ自國官吏ト同等ノ地位ニ置キ且ツ陸路貿易ニ於ケル商人ノ數貨物ノ量及資本ノ額ニ對スル制限ヲ解キタリ同年會々英佛同盟軍大舉シテ天津ヲ襲ヒ北京ヲ陷ル、ヤ露國公使ハ大ニ調停ノ勞ヲ取り清國ノ感謝ノ念冷却セサル間ニ天津條約ノ補款トシテ所謂北京追加條約ヲ締結シ清國ナシテ烏蘇里河以東ノ地ヲ割讓セシメ黑龍江省ノ境界線上ニ於テ兩國臣民ノ免稅貿易ヲ准許セシメ又露國商人ハ恰克圖ニテ交易スルノ外舊ニ依リ北京ニ行商スルヲ得且ツ其途上庫倫及張家口ニテ雜貨物ノ小賣ヲナスコトヲ許可シ清國商人モ亦任意露國內地ニ行商スルヲ得セシメ其他試ニ「カシユガル」ヲ開放シ兩國商業發達ノ結果トシテ尼布楚、恰克圖條約其他續締セラレタル補遺諸條約ノ廢棄ヲ宣言シ終リニ本條約中ノ陸路通商規定ハ他日不便ヲ認ムルトキハ更ニ之ヲ修正スヘキ旨ヲ約セリ

依テ一、八六二年(同治元年)右約束ニ基キ所謂「露清陸路貿易ニ關スル北京協約」(同治元年訂結陸路通商章程)ヲ協定シ且ツ其附則トシテ「露國續增稅則」ヲ規定セリ

同治八年
改訂陸路
通商章程

伊犁事件
ニ關スル
露都條約

光緒七年
改訂陸路
通商章程

右章程ニヨリ始メテ兩國々境百清里内ニ於ケル免稅貿易確定セシメ又蒙古内地ノ行商ヲ許可シ恰克圖ヨリ天津ニ至ル商路ヲ定メ輸入税ノ減額ヲナシ其他輸出税内地通過税等ノ納付ニ關シ詳細ニ規定スル所アリシカ右章程ハ三年間試行ノ筈ナリシヲ以テ一、八六九年(同治八年)ニ至リ更ニ之ヲ修正シ一層細密ナル規定ヲ設ケタリ

然ルニ一、八七一年(同治十年)ニ至リ伊犁事件起リ其善後策トシテ露都ニ於テ條約ヲ締結スルニ當リ露國ハ「クルヂヤ」「ケユヅナヤグ」「カシニガル」「庫倫」ニ領事ヲ任命スルノ權利ヲ有スルノ外肅州及吐魯番ニモ領事ヲ置クノ權利ヲ得蒙古内地及ヒ伊犁諸州塔爾巴哈台「カシニガル」「烏爾木齊其他長城以外ニアル天山南北路地方ニ於テ自由免稅貿易ヲ許シ且ツ黑龍江松花江及烏蘇里河ノ航行權ヲ重テ確認セリ

尙本條約ノ付屬トシテ所謂光緒七年改訂陸路通商章程ヲ制定シ同治八年改訂章程ニ修正ヲ加ヘタリ而シテ同章程ハ清國本部及關外地方ニ於テ露國人ノ營メル陸路貿易ニ對シテ之ヲ準用スルコト、セリ其主ナル修正點ハ蒙古ノ外天山南北兩路ヨリ天津及肅州ニ至ル通路及恰克圖ノ外尼布楚ヨリ天津ニ至ルノ通路ヲ開キ其輸出入税及内地通過税等ノ稅率ニ關シ少シク變更スル所アリ

尙以上ノ外鐵道貿易ニ關スル條約アルモ其成立ノ由來ニ付テハ本文中詳述シタレハ之ヲ略ス
(參照) (特種條約彙纂說明ノ部)

境界
後ニ變更

越境禁止

逃亡罪人
調印

第一、尼布楚條約(滿洲及西比利亞境界條約)

前文ニ曰ク「露清兩國皇帝ハ各員ヲ派シ尼布楚(Nerchinsk Nibchoo)ニ於テ次ノ如キ條約六ヶ條ヲ締結セシム」

其要項ニ曰ク

- (一) 外興安嶺格爾必齊河(Kerubetshi Gorbiza)及額爾古納河(Argun Ergone)ヲ以テ境界トス
- (二) 露國人ハ雅克薩(Albazin Yossa)ヨリ撤退シ又將來ニ於テハ旅行免狀ヲ所持スルニアラザレバ兩國人ノ越境往來及貿易ヲ許サス
- (三) 逃來犯罪人ハ直ニ之ヲ捕ヘテ最寄ノ官衙ニ引渡スヘシ
- (四) 本條約ハ露曆一、六八九年(康熙二十八年)尼布楚ニ於テ清國領侍衛內大臣索額圖(Solomon-tu Song Hoto)等ト露國使臣費岳多(Iheodoru slaxee vitch Golovin)等ノ間ニ調印セラル

(參照) 總稅務司出版條約彙卷一、三頁但シ露文ノ同書(丁)
特種條約彙纂 一七七頁

第二、清露陸路貿易ニ關スル協商

十

(説明)「ネルナンスク」條約ニ於テハ何等交通貿易ノ區域ヲ制限セス又交通路及開市場ヲ一定セサルカ故何處ニ至リ又何處ニ於テ貿易スルモ自由ナルモノト解スヘキモ實際ノ貿易ハ斯ル廣漠ノ範圍ニ行ハレタルニ非スシテ當初ハ僅ニ西比利亞蒙古等ノ國境ニ止マリシカ右條約締結後四年即一六九三年(康熙二十二年)「ピートル」大帝ハ「イズフラン、イデス」ヲ使節トシテ北京ニ遣ハシ康熙帝ニ請フテ左ノ條件ノ下ニ支那本部トノ交易ヲ開カシメタリ

- 一、露國人ハ三年ニ一回北京ニ至リテ貿易スルヲ得
- 二、北京ニ至ルモノハ商隊ニ限ル但其員數二百名以内タルヘシ
- 三、商隊ノ北京滞在ハ八十日以内タルヘシ
- 四、右貿易ハ特ニ納稅ヲ免スヘシ

尙此外ニ滿洲ニアル各市ノ貿易ヲ許可スル規定アリシト云フ

(參照) 特種條約彙纂一七八頁

本協約ニ關スル公文書ハ未ダ入手セサルニヨリ暫ク疑フ存ス

第三、恰克圖境界通商條約(蒙古及西比利亞境界條約)

其前文ニ曰ク「清露代表者境界ヲ確定センカ爲メ條項十一ヶ條ヲ訂結セリ」

其要項ニ曰ク

- (一) 第二條ニ曰ク從來ノ脫走者ハ追捕セララル、コトナカルヘキモ將來ニ於テハ兩國ハ各逃來犯罪人ヲ容隠スルコトナク之ヲ捕ヘテ境界最寄官憲ニ引渡スヘシ
- (二) 恰克圖(Karakta)ヲ中心トシ其東西ニ於テ西比利亞ト蒙古トノ境界ヲ定メ東ハ「アルグン」河岸ニ至リ西ハ「シヤビナイ、ダバカン」(Chahinai Dabagan 沙畢納依嶺)ニ至ル
- (三) 前記協商ニ規定セル商隊ニヨル貿易ノ外普通商人ハ恰克圖附近ノ國境上及「ネルナンスク」ニ於テ適當ノ地ヲ擇ヒ房屋ヲ建テ貿易スルコトヲ得
- (四) 清國政府ハ一寺院ヲ在北京露國使館ノ後ニ建テ露國僧侶一名其他補助員三名同所ニ住居シ又支那語研究ノ爲メ露國人六名同所ニ宿泊スルヲ許ス
- (五) 清國ニ於テハ理藩院之ヲ司リ其印璽ヲ用ヒ露國ニテハ元老院之ヲ司リ印璽ハ皇帝又ハ「トボロスク」市廳ノモノヲ用フ
- (六) 第十條ニ於テ兩國逃走者ニ越境殺人行竊者、無旅券、越境者、逃走又ハ竊盜軍人其他獸畜盜人等ノ所罰方ヲ規定セリ
- (七) 本條約ハ一、七二七年十月二十一日(雍正五年九月七日)「ネルナンスク」ニ於テ清國內務大臣「チャビナ」理藩院尙書「テグー」及兵部次官「ツーリシン」ト露國公使「サブア、ハヴラヂス

十一

調印

國境犯罪人ノ處罰(修正)

官吏往復(訂正)

寺院、留學生(訂正)

恰克圖及尼布楚ノ開放

境界

犯人引渡

ラヴィツナ」トノ間ニ議定セラレ翌年六月十四日「ペートル」二世ノ名ニ於テ批准セララル
(参照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、八頁但露文ハ (XXI)
特種條約彙纂 一八四頁

(附屬) 恰克圖境界通商條約追加條款

其前文ニ曰ク「平和條約十一ヶ條ハ永遠遵守セララルヘキモノナルモ其條文中誤謬アリ又數多
重要ナル點ヲ忘却セルカ故之ヲ訂正スルノ必要アリ其第二條ハ兩國臣民ノ掠奪及逃走ヲ禁止
スル方法ヲ規定スルモ餘リニ曖昧不定ナルヲ以テ全然之ヲ廢棄シ之ニ代リテ遵守スヘキ新規
定ヲ設ケ強盜ノ詮索逮捕及漫ニ國境ヲ通過セルモノニ對スル罰則ヲ左ノ通り制定ス」

第十條 先ツ武裝盜人ノ處罰方ヲ規定シ清國人ニシテ掠奪ヲ行ヒタルモノハ理藩院ニテ嚴罰
ニ處シ露國人ハ元老院ニテ處刑ス獸畜ヲ盜ムモノハ其物ノ十倍ノ罰金ニ處セラル武裝セサ
ル盜人ニシテ境ヲ越ヘタルモノハ百撃ノ刑ニ處ス以下畧ス

本條款ハ一、七六八年十月十八日(乾隆三十三年九月十九日)露國委員「クロボトフ」ト清國
委員理藩院首席補助官「カラナシ」等ト恰克圖ニ於テ議定セララル
(参照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、一八頁但露文ハ (XIV)

特種條約彙纂 一九一頁

罰則 (改)
調印

第四、「クルヂヤ」通商條約(伊犁及タルバガタイ通商章程)

前文ニ曰ク「清露兩國臣民ノ便宜ノ爲メ伊犁市(固爾札 Kuldja) 及塔爾巴哈臺市 (Tarbagatai
塔城 Tchoungout chak) ニ於テ交易ヲ開始スル爲メ左ノ通商條約ヲ締結ス」

其要項ニ曰ク

(一) 伊犁及「タルバカタイ」市ニ於テ兩國商人ハ自由ニ交易ヲナスヲ得露國ハ其臣民ヲ保護監
督スル爲メ該地ニ領事ヲ置キ清國人ノ事件ハ伊犁最高行政官ニ於テ管轄ス

(二) 交易ニ對シ稅ヲ課セス

(三) 露國商隊ハ清領ニ入ルニ當リ露國政府ノ通行券ヲ清國歩哨ニ示スヘシ然ルトキハ歩哨兵
ハ之ヲ護送ス

(四) 露國商隊ハ清國歩哨ノアル道路ニ依ルヘシ若シ然ラスシテ「キルギス」人ノ爲メニ盜難ニ
罹ルモ清國ハ何等其取調ニ付責任ヲ負ハス

(五) 小事件ハ領事及清國官吏ニテ協議決定シ刑事上ノ重大事件ハ恰克圖境界條約ニヨリ處斷
ス

(六) 露國商隊ハ毎年五月二十五日ヨリ十二月十日迄(清明ヨリ冬至ニ至ル間)ニ到着交易スヘ
シ其後ハ之ヲ中止ス但シ例外例ヲ設ク

(七) 逃亡犯罪人ノ逮捕引渡ヲ互約ス
(八) 信用賣買ヲ准サス

逃亡犯罪
人掛賣、(訂
正)

居住地牧場

(九)伊犁及ヒ「タルバガタイ」市附近ニ一定ノ地ヲ割シ露國人ノ住宅及倉庫ノ建設ヲ許シ又一定ノ牧場ヲ指定ス(第十三條)

宗教墓地

(十)露國人ニ宗教禮拜ノ自由ヲ與ヘ且ツ一定ノ墓地ヲ供ス

羊稅

(十一)清國官吏ハ露商カ帶來スル羊十頭毎ニ二頭ヲ官收シ各一頭ニ對シ麻布一疋ヲ與フ

公文書

(十二)兩國間ノ公文書ハ露國側ニテハ西部比利亞ノ最高行政官清國側ニテハ伊犁將軍所屬ノ營務處ノ媒介及割印ノ下ニ往復ス

調印批准

(十三)本條約ハ一、八五一年七月二十五日(咸豐元年六月)クルヂヤ(Kuldja)ニ於テ伊犁將軍奕山及參贊大臣布彥泰ト露國陸軍大佐「ユヴァルヴスキ」トノ間ニ調印セラレ清國側ニテハ同年八月二十一日奏定、露國側ニテハ同年十一月十三日批准セララル
(參照) 總稅務司出版條約集卷一、二二頁但露文ハ(L)

特種條約彙纂 一九五頁

境界

第五 愛璉條約(滿洲及西比利亞境界條約)
其前文ニ曰ク「露清兩國皇帝ハ各員ヲ派シ兩國永久ノ和好並ニ其臣民ノ利益ノ爲メ次ノ如キ條約ニケ條ヲ締結セシム」
其前項ニ曰ク
(一)アルグン河ヨリ起リ海口ニ至ル黑龍江(Amur R.)左岸ノ地ヲ露國領トシ其右岸烏蘇里河(Ousouri R.)ニ至ル間ヲ清國領トシ烏蘇里河以東海ニ至ル間ハ清露兩國ニ於テ共管ス
(第一條)

航行權

(二)黑龍江、松花江(Soungari R.)及烏蘇里河ニ於テハ單ニ清露兩國船ノ航行ヲ許ス

交易

(三)前記三江岸ニ住居スル兩國人ノ交易ヲ許シ官員等ハ兩岸ニ在ツテ相互ニ兩國商人ヲ保護ス

調印批准

(四)本條約ハ一、八五八年五月十六日(咸豐八年四月二十一日)愛璉ニ於テ黑龍江將軍奕山(Chan)ト東シベリヤ將軍「ニコラス、ムラビエフ」トノ間ニ調印セラレ、八五八年六月二日ニ於テ清國皇帝ニヨリ同年七月八日ニ於テ露國皇帝ニヨリ批准セララル
(參照) 總稅務司出版條約集卷一、二七頁但露文(LIV)

特種條約彙纂 二〇〇頁

第六、天津條約(一般通商約)

前文ニ曰ク「兩國和好ノ道及兩國利益ノ事ヲ明定スル爲メ本條約十二ヶ條ヲ締結ス」
其要項ニ曰ク(但陸路貿易ニ關スル條項ノミヲ拔萃ス)

- (一) 露清兩國ハ最早昔日ノ如ク元老院及理藩院ノ媒介ニ依ラスシテ露國外務大臣ト清國軍機大臣トノ間ニ互ニ同等ノ地位ノ上ニ文書ヲ往復シ又露國ノ使臣モ軍機大臣各省督撫等ト同等ノ地位ニテ往來文通ス以下露國領事官ト地方官トノ關係ニ付テモ亦同シ(第二條)
- (二) 嗣後陸路貿易ニテハ商人ノ數貨物ノ量及資本ノ額ニ付何等制限ヲ加ヘス(第四條)
- (三) 通商場ニ於テ露清兩國人間ニ事項アルトキハ清國地方官ハ露國領事官ト會同辦理シ露國犯罪人ハ露國法ニヨリ處罰セラルヘシ(第七條)
- (四) 兩國境界未定ノ分ヲ查勘シ更ニ邊界協約ヲ締結シテ本條約ノ附則トス(第九條)
- (五) 露國留學生ノ北京滞在期限ヲ廢シ彼等ハ本國政府ノ准許ヲ得テ何時ニテモ歸國シ他ノ者ト交代スルヲ得セシム
- (六) 將來他外國ト更ニ優遇通商條約ヲ締結スルトキハ露國モ直ニ之ニ均霑ス(第十二條)
- (七) 本條約ハ一、八五八年六月一日(咸豐八年五月三日)天津ニ於テ大學士總理刑部事務桂良及吏部尙書漢軍都統花ト露國全權大臣伯爵「ユーワイミユト、プーチアチヌ」トノ間ニ調印セラル

(參照) 總稅務司出版條約集卷一、二九頁但露文ハ(LVI)

特種條約彙纂 二〇二頁(不完全)

東方境界
確定

第七、北京追加條約(天津條約ノ補款)

前文ニ曰ク「露清兩國間ニ現存スル諸條約ヲ詳細檢閲シ相互ノ和親ヲ鞏固ニシ貿易ノ發達ヲ計リ且ツ將來ノ誤解ヲ豫防スル爲メ茲ニ左記ノ追加條約十五ヶ條ヲ締結ス」
其要項ニ曰ク

(一) 一、八五八年五月十六日締結愛理條約第一條ヲ詳明ナラシメ且ツ同年六月一日締結天津條約第九條ヲ遵照シ左ノ通り議定ス

露清兩國ノ東方境界線ハ什勒喀河(Chilka)ト額爾古納河トノ合流點ヨリ初マリ黑龍江ノ流ニ沿ヒテ下リ同江ト烏蘇里河ノ合流點ニ至リ同處ヨリ南ニ轉シテ烏蘇里阿及松阿察河(Song-atcha)ヲ遡リ興凱湖(Hinkai)ニ至ル而シテ松阿察河ノ水源ヨリ兩國ノ境界線ハ興凱湖ヲ越ヘテ其對岸ニアル白綾河(Balan-ho Toun)ニ向ヒ同河口ヨリ山脈ニ順ヒテ湖布圖河口(Hou-piton Houp-ton)ニ至リ更ニ同河口ヨリ琿春河ト大海トノ中間ニアル山脈ニ從フ(兩國交界ト圖門口トノ相會スル處ハ江口ヨリ上流二十清里ノ所ニアリ)

(二) 前記ノ場所ニ於テ清國人カ殖民セル場合ニハ露國政府ハ該住民カ依然同所ニ居住シ並ニ舊ノ如ク漁獵ニ從事スルコトヲ許スヘシ

(三) 是迄未定ナル西方ノ境界ハ此後山脈ノ方向、大河ノ流或ハ現存スル清國境界兵ノ駐屯所ヲ標準トシテ之ヲ定メ恰克圖境界條約締結後一、七二八年(雍正六年)ヲ以テ建設セル「シヤンメンダガ」(Chahindabaga or chahinai Dabagan 沙賓達巴哈又ハ沙畢納依嶺)ト名クル最

清國住民
西北方境
界

立標

終ノ燈臺ヨリ西南ニ向ヒ「ツアイサン」湖 (Dsaigans 齊桑淖爾湖) ニ至リ之ヨリ「イシツク、クール」湖 (Issyk-Koul) ノ南ニアル天山ノ南支脈 (Tang richan Alatan) ニ從テ南下シ「浩罕」(Kokand 又ハ敖罕) ニ至ル

(三) 將來起ルヘキ境界問題ハ凡テ本條約ノ第一條及第二條ノ規定ニ依リ之ヲ決定ス又東方興凱湖ヨリ圖們江ニ至ル間及西方「シヤバンダバガ」燈臺ヨリ浩罕ニ至ル間ニ境界標ヲ建ツル爲メ兩國ヨリ委員ヲ任派スヘシ

東境免稅貿易

(四) 本條約第一條ニ規定セル黑龍江省ノ境界線上ニ於テハ兩國臣民ノ免稅交易ヲ准許シ同時ニ愛琿條約第二條ニ規定セル烏蘇里河、黑龍江、及松花江岸ニ住居スル兩國人ノ交易ニ關スル件ヲ重テ申請ス(第四條)

通商

(五) 露國人ハ恰克圖ニ於テ貿易スルノ外舊ニ依リ北京ニ行商スルヲ得又其途上庫倫 (Qulun) 及張家口 (Kalgan) ニテ小雜貨ノ小賣ヲナスコトヲ得ヘシ

露國人ハ何時ニテモ清國通商地ニ赴クコトヲ得ルモ其人數ハ同一場所ニ二百人以上集合スルヲ得ス

「カシユガール」ノ開放自由賣買

清國商人モ任意露國內地ニ行商スルヲ得(第五條)

(六) 伊犁「タルバガタイ」ト同一ノ條件ニテ試ニ喀什噶爾 (Kachgan) ニ通商ヲ開始ス(第六條)

(七) 露清各通商場ニ於テ兩國人ハ均シク自由賣買ヲ許サレ掛賣ヲナスコトヲ得又其滞在期ヲ制限セス

領事

(八) 露國ハ喀什噶爾及庫倫ニ領事ヲ任派シ清國モ亦其欲スル場合ニハ露國ノ首府又ハ其他ノ地ニ領事ヲ置クコトヲ得ヘシ

領事ト地方官トノ關係ニ付テハ天津條約第二條ヲ適用シ全然同等ノ地位ニ立ナテ相交行文ス

地位

兩國商人間ニ於テハ凡テノ事件ハ兩國官吏ニテ會同商辦シ若シ犯罪人アラハ天津條約第七條ニヨリ各本法ニヨリ治罪ス

裁判管轄

商業取引ニ關スル爭論、取戻請求其他類似ノ不和ハ商人相互ノ解決ニ任セ領事及地方官ハ只請求ニ應シ和解スルコトアルノミ

商論爭

商品ノ注文、商店、家屋等ノ貸借ニ關シテハ凡テ書面ヲ以テ契約シ且ツ領事又ハ地方官ノ追認ヲ經ヘシ

追認

商事ニ關セサル小爭訟及哀訴等ハ領事及地方官ニテ會同查辦シ各所屬人ノ罪ヲ治ス

非商事件

露國人ニシテ清人間ニ隱匿シ又ハ内地ニ逃亡セル場合ニハ地方官ハ領事ノ請求ニ應シ直ニ之ヲ搜索シ領事館ニ引渡スヘシ清國人ニシテ露國人間ニ隱レ或ハ露國ニ逃亡セル場合ニ於テモ亦同シ

重大ナル犯罪例ヘハ殺人、重傷、放火、等ノ如キハ訊問ノ後露國人ナラハ露國ニ送リテ處罰シ清國人ナラハ其犯罪地官吏ニヨリ科刑セラレ或ハ他地方ニ送り處罰セラル(第八條)

引渡

(九) 近時兩國人民間ノ通商關係ハ益々重要トナリ且ツ新境界線モ確定セラレタルヲ以テ尼布

重罪

境界事務

交渉官吏
ノ増加

楚及恰克圖條約其他歷年續締セラレタル補遺諸條約ノ規定ハ最早實行シ難ク且ツ又境上官吏ノ關係及境界事件調査ニ關スル規定モ最早現在ノ事情ニ適應セサルニ至リタルヲ以テ此等ノ規定ニ代ル爲メ左ノ通り協定ス

從來ニ於テハ恰克圖知事ト庫倫辦事大臣トノ間ニ於テ東方境界事務ヲ交渉シ西部西比利亞總督ト伊犁將軍トノ間ニ於テ西方境界事務ヲ交渉セシカ今後ハ此外黑龍江州ノ軍事總督ト黑龍江將軍及吉林將軍トノ間並ニ恰克圖境界事務官ト恰克圖部員(Dzargontchei Pou-you-
③)トノ間ニ於テ本條約第八條ノ意味ニ從ヒ境界事務ヲ交渉ス

重要事件

格別重要ナル境界問題ニ關シテハ東部西比利亞總督ハ軍機處或ハ理藩院ト交渉辦理スルヲ得

賠償逃亡者

(十) 畜盜ニ對スル賠償ハ之ヲ數倍ニ騰スヲ得ス然ルニ漢文ニハ「照例計贓定罪」トアリ相符合セス逃亡者アリタル旨通知ヲ受クルヤ直ニ之ヲ捕ヘテ境界官吏ニ引渡シ逃亡ノ動機ニ關スル調査ハ其所屬國官吏ヲシテ之ヲ行フ(第十條)

修正

(十一) 將來本條約ニ規定セル陸路通商ニ關スル條項中不便ノ處アラハ東部西比利亞總督ト清國邊界大臣トノ間ニ協議シ追加條款ヲ締結スルヲ得(第十四條)
天津條約第十三條最惠條款均露ノ件ヲ更ニ確認ス

調印

(十二) 本條約ハ一八六〇年十一月二日(咸豐十年十月二日)北京ニ於テ清國全權内大臣恭親王ト露國全權大臣「ニコラス・イグナチエフ」トノ間ニ調印セラル

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、三六頁但シ露文ハ

特種條約彙纂 二〇四頁

本條約ノ批准ニ關スル議定書、總稅務司出版條約集卷ノ一 (LXXIV) ニアリ

本條約ノ追加條項 同 (LXXVII) ニアリ

第八、清露陸路貿易ニ關スル北京協約(同治元年訂結陸路通商章程)

(説明) 本條約ハ前記北京追加條約第十四條ニ基キ協定セラレタルモノニシテ其規定ハ後ニ記載スル一、八六九年(同治八年)北京改約ニヨリ全部改訂セラレタルヲ以テ最早何等ノ効力ナシ但シ其附屬稅則ノミハ光緒七年通商章程ニヨリ追認セラル、カ故依然有効ニシテ實施セラル

其前文ニ曰ク「前ニ北京追加條約ヲ議定セシモ通商章程及稅務條款ハ未タ核定セサルニヨリ茲ニ左ノ通り通商章程條款ヲ酌定ス

(注意) 後ニ記載スル一八六九年(同治八年)改訂通商章程ト對照セヨ

其要項ニ曰ク

- (一) 後記一、八六九年(同治八年)改訂通商章程第一條ト同シ
- (二) 改訂章程ト大同小異
- (三) 改訂章程ト大同小異
- (四) 改訂章程ト異ル點ハ單ニ天津行貨物ノ十分ノ二ヲ張家口ニ留メテ小賣スルヲ得ルニアリ
- (五) 改訂章程ト同シ
- (六) 改訂章程ト異ル點ハ過納ノ税金二分ノ一ヲ還付セラレサルニアリ
- (七) 改訂章程ト異ナル點ハ通路ニ依ラサル貨物ハ全テ沒收スルト代金代納ヲ許サ、ルコト之ヲ

百清里内ノ免稅
内地行商
恰克圖ヨリノ通路
張家口小賣
商定輸入稅
稅物轉運
違法ニ對スル處分

他港又ハ内地轉送
海路貿易
陸路輸出
天津通州ヨリ内地貨物輸出
張家口土貨輸出
通州土貨輸出
外國貨物ノ輸出
違法ニ對スル處分
有効期間
關印

- (八) 改訂章程ト同シ
- (九) 改訂章程ト同シ
- (十) 改訂章程ト異ル點ハ原買港ニ於テ輸出正稅ヲ納ムルノ外尙天津ニテ復進口ノ半稅ヲ納ムヘキ旨ヲ規定セルト恰克圖到着ノ期限ヲ定メサルノ點ニアリ
- (十一) 改訂章程ト同シ
- (十二) 改訂章程第十四條ト同シ
- (十三) 改訂章程第十三條ト同シ
- (十四) 改訂章程第十五條ト同シ
- (十五) 改訂章程第十六條ト大同小異但シ執照ノ有効期間ヲ六ヶ月ニ限ル
- (十六) 本章程ハ三年間試行シ若シ兩國ニ於テ改訂ノ必要ヲ認ムルトキハ期滿前六ヶ月以前ニ豫告ヲナスヘシ何等豫告ナキトキハ更ニ五年間有効トス最モ右期間中ト雖トモ緊急妨礙ノ處アラハ臨時酌改ス
- (十七) 本章程ハ一、八六二年二月二十日(同治元年二月四日)北京ニ於テ清國總理各國事務王大臣ト露國公使把トノ間ニ調印セララル

(參照) 稅務司出版條約集卷一、四七頁露文ハ、(LXXIXI) 特種條約彙纂ニハナシ

(附則) 露國續增稅則(同治元年二月十一日)

一、輸入貨物トシテハ

綿布類、絹布、羅紗類、皮類、藥材類ニ對シ特別稅率ヲ定ム

二、輸出貨物トシテハ

バター類、磚茶類ニ對シ特別稅率ヲ定ム

(參照) 總稅務司法版條約集卷ノ一五二頁

第九、「チユグチヤグ」議決書(勘分西北界約)

前文ニ曰ク「兩國勘界大臣ハ北京追加條約第二條及第三條ニ基キ「シヤバンダバガ」臺燈ヨリ浩罕邊界ノ葱嶺(Tsung Ling)ニ至ル兩國境界ヲ明確ナラシムルタメ境界地名ヲ記シ並ニ境界事務處辦章程ヲ定メ本議定書ヲ作成ス」

其要項ニ曰ク

(一) 第一、二、三及四條ニ於テ右境上ニ連亘スル山脈、谿谷河流其他清國境界兵駐屯所等ヲ列記シ以テ境界線ト確定ス

(二) 境界線確定ノ結果清國境界兵駐屯所ニシテ露國側ニ存在スルモノハ界標建立後之ヲ撤退スヘシ

(三) 本議定書調印ノ日付ヲ以テ邊界住民ノ所屬ヲ定メ露國側ニ居住スルモノヲ露國人トシ然ラサルモノハ清國人トス而シテ將來一方ヨリ他方ニ移住スルモノハ其ノ土地ヲ返付シ以テ混亂ヲ免ル但シ例外アリ

(四) 調印後二百四十日以内ニ兩國委員立會ノ上境界標ヲ立テ其翌年覺書ヲ作り境界標數及名稱等ヲ明記シ憑トナス

(五) 清國ヨリ源ヲ發シ露國ニ流注スル河ニ對シ清國側ニ於テ其流注ノ道ヲ改截スルヲ得ス露國側ニ於テモ亦同シ

(六) 從來境界事務ハ庫倫辦事大臣ト恰克圖知事並ニ伊犁將軍「タルバガタイ」參贊大臣ト西部

定界
清國兵撤
住民ノ所
屬
立標
河流
交渉官吏

西比利亞總督トノ間ニ於テ交渉セシカ今後烏里雅蘇臺 (Uliastai) 及科布多 (Kobdo) ノ境界事務ハ烏里雅蘇臺將軍及科布多參贊大臣ト「トムスク」知事及「セミバラナンスク」知事トノ間ニ於テ交渉辦理ス

(七) 本議定書ハ一、八六四年九月二十五日 (同治三年九月七日)「十六日」塔城 (Chugan Chak) ニ於テ清國勘界西北界大臣明誼 (Ming-i) ノ「クルジャ」(伊犁市) 駐節露國總領事「シヨン、ザカロフ」トノ間ニ調印セラル

(参照) 總稅務司出版條約集卷一、五五頁
特種條約彙纂ニハナシ

第十、露清陸路貿易ニ關スル北京改約 (同治八年改訂 陸路通商章程)

前文ニ曰ク「一、八六二年 (同治元年) 締結陸路通商章程ハ試行三年ノ期滿ナタルヲ以テ更ニ左ノ通り改約ス」

其要項ニ曰ク

輸入規則

- (一) 兩國境界各百清里 (約十六里半、約六十里) 以內ニ於ケル貿易ニ對シテハ免稅ス而シテ其取締ニ關シテハ各々國境規則ヲ任意適用ス
- (二) 露國商人ハ自由ニ清國官憲ノ駐在スル蒙古各處ニ於テ通商スルヲ得何等税金ヲ課セス但シ清國官憲ノ駐在セサル地方ニ行商スルモノハ本國官憲ノ下付シタル族券ヲ第一清國々境官憲ニ示シ其蓋印ヲ經ヘシ
- (三) 露國商人ニシテ恰克圖ヨリ露國貨物ヲ天津ニ輸送セントスルモノハ露國境界事務官並ニ清國恰克圖部員ノ蓋印セル運貨執照ヲ携帶シ張家口、東壩 (Tung-pa) 及通州ヲ經テ直ニ天津ニ抵ルヘシ而シテ右執照ハ發行後六ヶ月以內ニ天津ニテ返還スヘシ (第二條)
- (四) 天津行貨物ノ幾部分ニテモ張家口ニ留メテ小賣スルヲ得但シ三日以內ニ稅務監督ニ通知シ賣却ニ先テ輸入正稅ヲ納ムヘシ
- (五) 天津着荷物ニ對シテハ一般輸入稅ヨリ三分ノ一ヲ減シタル税金ヲ納ムヘシ
- (六) 張家口ニ殘シタル貨物同地ニテ賣レサルトキハ之ヲ通州或ハ天津ニ轉運スルヲ得之ニ對

シテハ何等更ニ輸入税ヲ納ムルノ要ナキノミナラス過納ノ税金即チ輸入正税ノ三分ノ一ヲ還付セラレ

違法ニ對スル處分

(七) 執照記載ノ貨物分量ト天津着荷物又ハ張家口殘留貨物ノ分量トノ間ニ相違アルトキハ之ヲ沒收ス又規定ノ通路ニ依ラスシテ窃ニ賣却スル貨物ハ沒收ス但シ單ニ規定ノ通路ニヨラサリシ貨物ニ對シテハ減税セス

他港又ハ内地轉送

(八) 天津着貨物ヲ海路清國ノ他港ニ運出セントスルトキハ原免三分ノ一税ヲ補足シ且ツ輸出半税ヲ納ムヘシ

海路輸出

(九) 露國商人ノ海路輸出ニ對シテハ一般税則ヲ適用ス

陸路輸出

(十) 露國商人ニシテ他港ニテ清國土貨ヲ買入レ輸出税完納ノ上天津ヲ經テ陸路自國ニ輸出セントスル者ニ對シテハ再ヒ税ヲ課スルコトナシ但シ同商人ハ先ツ天津領事ノ發給スル運貨執照ニ清國稅關監督ノ蓋印ヲ受ケ第三項規定ノ通路ニヨリ六ヶ月内ニ恰克圖ニ到着スヘシ若シ途中他道ニ依リ又ハ賣却シタルモノハ第七項ノ規定ニヨリ處分ス

天津通州等ヨリ内地土產輸出

(十一) 天津通州等ニテ内地ヨリ來ル所ノ貨物ヲ買入レ陸路輸出セントスル者ハ輸出正税ヲ納ムヘシ

復進口土貨ノ輸出

(十二) 露國商人天津ニテ復進口土貨ヲ買入レ陸路回國セントスル場合ニ若シ該土貨ニシテ原

通州土貨輸出

輸出口ニテ既ニ輸出正税ヲ納メ且ツ一年内ニ出津スルモノナルトキハ更ニ課税セララル、コトナク又天津ニテ納メタル復進口半税ハ拂戻サルヘシ

張家口土貨輸出

(十三) 露國商人通州ニ在ツテ土貨ヲ買入レ陸路回國スルモノハ豫メ東壩ニ報明シ輸出正税ヲ納ムヘシ

外國貨物ノ輸出

(十四) 露國商人張家口ニテ土貨ヲ買入レ陸路回國スルモノハ輸出半税ヲ納ムヘシ

違法ニ對スル處分

(十五) 露國商人天津或ハ其他ノ港ニテ外國製貨物ヲ買入レ陸路回國スル場合ニ若シ該洋品ニシテ既ニ輸入正税及子口半税ヲ納付シタル證書ヲ有スルトキハ何等更ニ税ヲ課セララル、コトナシ但シ單ニ輸入正税ノミヲ納付シタルモノナルトキハ露國商人ハ更ニ子口半税ヲ納ムルヲ要ス

免稅品

(十六) 露國商人天津、通州、張家口ヨリ販貨回國スル場合ニ證明書ト貨物ト符合セサル場合ニハ第十項ニ照ラシ處分ス

稅則

(十七) 英清通商條約附則稅則第二條ヲ適用ス

有効期間

(十八) 露商ノ輸出入品ニ對シテハ一般稅則ニ照ラシ徵稅ス一般稅則ニ記載ナキモノハ天津所定俄國續則ニヨリ又右兩則ニ記載ナキモノハ從價五分稅ヲ課ス(後ニ變改)

一般規定

(十九) 本章程ハ先ツ五ヶ年間有効トシ期滿ツル前六ヶ月以前ニ豫告ヲ以テ改訂ス若シ双方ニ於テ何等豫告ナキトキハ更ニ五ヶ年間効力ヲ存續ス若シ緊要妨礙ノ處アラハ右期間中ト雖

調印

トモ臨時酌改ス
 (二〇) 本章程ハ一、八六九年四月十五日(同治八年三月十六日)北京ニ於テ清國總理各國事務
 恭親王及同衙門大臣ト露國公使「ヅランガリー」トノ間ニ調印セラレ
 (參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、六三頁但シ露文ハ (XCI)
 特種條約彙纂ニハナシ

第十一、露都條約

甲、伊犁事件ニ關スル露都條約(光緒七年中俄改訂條約)

前文ニ曰ク「兩國ノ利益ニ關係アル國境及通商ニ關シ左ノ通り妥協商定セシメ以テ兩國ノ和好ヲ固クス」

其要項ニ曰ク

占領地返還 (一) 一、八七一年(同治十年)以來一時露軍ニテ占領セシ伊犁地方ヲ清國ニ返還ス但シ本條約

住民 第七條ニ指定セル西部地方ハ露領ニ歸屬ス

土地所有權 (二) 伊犁住民ハ原住所ニ居ツテ清國民トナルモ露國ニ移住シテ露國民トナルモ自由タルヘシ但シ伊犁ノ引渡以前ニ之ヲ決定スルヲ要ス露國籍ニ入ルモノニ對シテハ一年間ニ遷居其他財物轉運ノ猶豫ヲ與フ

納稅 (三) 伊犁ニ於テ土地ヲ有スル露國人ハ引渡後尙之ヲ保有ス但シ新ニ露國籍ニ入りタルモノニ對シテハ此限ニ非ス

伊犁ノ西部 (四) 一、八五一年(咸豐元年)「クルジヤ」條約第十三條ニ指定セル居住地域外ニ土地ヲ有スル露國人ハ清國人ト同様稅餉ヲ負担スヘシ

領事 (五) 伊犁ノ西部ハ新ニ露國籍ニ入りシカ爲メ其所有地ヲ失ヒシモノ、居住地トシテ露領ニ編入ス(第七條)境界線ハ略ス

(五) 露國ハ條約上伊犁(クルジヤ)塔爾巴哈臺(チユグチヤグ)喀什噶爾、庫倫ニ領事ヲ任命ス

ヘキ權利ヲ有スルカ今後肅州及吐魯番(Tou-Fan)ノ兩城ニモ領事ヲ置クコトヲ得尙通商發達ノ結果清國ト協議ノ上科布多、烏里雅蘇臺、哈密、烏魯木齊(迪化)古城ノ五ヶ處ニモ領事ヲ置クコトヲ得ヘシ

非開放地領事

吐魯番ハ外國貿易ニ開放セル場處ニアラサルヲ以テ其地ニ領事ヲ設置スルノ權利ハ清國港口、内地諸省及滿洲ニ之ヲ援用スルヲ得ス

通商蒙古地方

(六) 露國人ハ清國ニ服従スル蒙古地方ニ於テ清國官吏ノ駐在スル處タルト其然ラサルトナシハス均シク從來ノ通り通商貿易ヲナスコトヲ得之ニ對シ何等税金ヲ課セラル、コトナシ露國人ハ伊犁諸州、塔爾巴哈臺、喀什噶爾、烏爾木齊其他關外ニアル天山南北兩路地方ニ於テモ右同様當分ノ間自由ニ貿易ヲナスコトヲ得但シ他日通商隆盛ニ赴キ兩國政府間ニ稅則ヲ協議スルトキハ右免稅ノ例ヲ廢止ス

住居倉庫

(七) 張家口及露國カ領事ヲ置キ得ル場所ニテハ一、八五一年「クルヂヤ」條約第十三條ニ規定スルカ如ク一定ノ地域ヲ定メ露國人ノ家屋、店舗、倉庫其他ノ建物ヲ構造スルヲ得領事館ナキ張家口ニ於テ露國人ニ舖房行棧建造ヲ准シタルハ例外ニ屬シ他處ヲシテ之ヲ援用スルヲ得ス

通路輸入

(八) 露商露國ヨリ陸路清國內地ニ物品ヲ輸送セント欲スルモノハ從來ノ如ク張家口及通州ヲ經テ天津ニ至リ其ヨリ他港又ハ内地市場ニ輸送シ以テ各地方ニ賣捌クヘシ上記ノ都邑、海港又ハ内地市場ニテ買入レタル物品ヲ陸路露國ニ輸出セントスルトキハ右

輸出

同一ノ通路ニヨルヘシ又彼等ハ露國隊商ノ行キ得ル最終驛ナル肅州ニ前往シテ商取引ニナスヲ得且ツ天津ニ於ケルト同一ノ利益ヲ享ク

他地方ノ陸路貿易

(九) 清國本部及關外地方ニ於テ露國人ノ營メル陸路貿易ニ對シテハ本條約ニ付屬スル通商章程ヲ準用ス

有効期間

本條約中ノ通商條款並ニ其補遺タル通商章程ハ批准交換後十ヶ年間有効トス但シ期滿前六ヶ月以前ニ双方改正ヲ希望セサルトキハ更ニ十ヶ年間有効トス

稅則

(十) 將來陸路貿易發達シ現行稅則ヲ改定スルノ必要生セハ兩國協議ノ上之ヲ改定ス但シ從價五分ヲ標準トス

賠償

(十一) 一、八六〇年即咸豐十年締結北京追加條約第十條ニ規定セル畜盜賠償額ニ付今日ニ至ル迄兩國意見ヲ異ニセシカ右條文ハ「竊盜又ハ誘取者ハ其贓畜ノ實價ヲ賠償ス」トノ意味ニ解釋スヘキコトヲ茲ニ決定ス

航行通商

(十二) 一、八五八年(咸豐八年)締結愛琿條約ニ規定セル露清兩國人民ノ黑龍江、松花江及烏蘇里河ノ航行權及其沿岸住民トノ貿易權ニ關スル條款ヲ重テ確認ス右條款ノ實施方ニ關シテハ兩國政府ニ於テ更ニ商定スヘシ

舊條約

(十三) 本條約ニヨリ更改セラレサル舊條約ハ依然トシテ効力ヲ有ス

附屬議決書

(十四) 露國ノ伊犁占領費ヲ償ヒ被害露國人民ノ家族ヲ補助スル爲メ清國政府ヨリ賠償スヘキ

九百萬「ルーブル」ヲ本條約批准交換後二ヶ年內ニ支拂フノ方法ヲ議定ス
 (十五) 本條約ハ一、八八二年二月十六日(光緒七年)露都ニ於テ清國公使曾紀澤ト露國外務大臣「ニコラス、ド、ギェール」トノ間ニ調印セラレ同年八月七日批准ヲ交換セリ
 (參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、七二頁但シ露文ハ、(XCVII)
 特種條約彙纂 二二四頁

乙、清露陸路貿易ニ關スル露都改約(光緒七年改訂 陸路通商章程)

(說明) 本通商章程ハ前記伊犁事件ニ關スル露都條約ノ附屬ニシテ其規定スル所ハ同治八年ノ通商章約ト大差ナキモ新ニ天山南北兩路ニ於ケル陸路通商ヲ詳シ及肅州ニ至ルノ商路ヲ開キタルガ如キハ主ナル相違點ナリ
 其事項ニ曰ク

輸入規則

- (一) 同治八年改訂陸路通商章程第一條ト同シ只「任便貿易ヲ准ス」ノ一句ヲ加フ
- (二) 露國商人ニシテ蒙古及天山南北兩路ニ赴キ貿易スル者ハ附屬表ニ記載ノ處ニ於テ界ヲ越ヘ本國官憲ノ下付スル旅券ヲ携帶スヘシ蒙古及天山南北兩路ニ運到スル貨物ニシテ賣レ殘リアルトキハ天津及肅州(即嘉峪關)ニ運往シ尙賣盡サルトキハ内地ニ運往スルヲ得
- (三) 露商ニシテ恰克圖及尼布楚ヨリ貨物ヲ天津ニ運往セントスルモノハ張家口、東壩、通州ヲ

恰克圖及

百清里免
 稅
 蒙古及天
 山南北路
 通商

尼布楚ヨ
 リノ通路

張家口小
 賣

天津肅州
 輸入稅
 殘物轉運

肅州ヨリ
 内地運入
 違法ニ對
 スル處分

他港又ハ
 内地へ轉
 送

天津ヨリ
 陸路輸出
 復進土貨

肅州ヨリ
 輸出

經由シ又露國邊界ヨリ貨ヲ運ヒ科布多、歸化城ヲ過キ天津ニ至ルモノモ亦此路ニ由ルヘシ
 其他ハ同治八年ノ章程ニ同シ

- (四) 同治八年ノ章程ト異ルハ三日ヲ五日ニ改ムルニアリ
- (五) 天津着貨物ニ對シテハ前章程ト同様三分ノ一減稅シ肅州着貨物モ同様ノ待遇ヲ受ク
- (六) 張家口ニテ賣レ殘リノ貨物ヲ通州、天津ニ轉運スル場合ニ過納三分ノ一稅ヲ返還スルハ同章程ト同シ而シテ該貨物ヲ張家口ヨリ内地ニ運入スル場合ニハ子口半稅ヲ納メシム
- (七) 肅州ヨリ内地ニ運入スル貨物ハ天津ニ於ケルト同様子口半稅ヲ納ムヘシ
- (八) 同治八年ハ章程第七條ト大同小異只車脚運夫ノ所爲ニ係リ荷主之ヲ知ラサル場合ニハ酌量減罰ス但シ此決定ハ陸路貿易ニノミ適用スルコトヲ附記ス
- (九) 同治八年ノ章程第八條ト同シク三分ノ一稅ヲ補足シ子口半稅ヲ納ム

輸出規則

- (十) 土貨輸出ノ際ハ第三條ニ規定スルカ如ク張家口等ヲ經由シ輸出正稅ヲ納ムヘシ
 天津ニテ復進口土貨ヲ販賣回國シ又ハ他口ニテ土貨ヲ買入レ天津ヲ經テ陸路回國スル場合ニ若シ他口ニテ輸出正稅ヲ納メタル證書ヲ有スルトキハ再ヒ稅ヲ課セス且ツ天津到着後一ヶ年內ニ出立回國スルトキハ天津ニテ納メタル復進口半稅(海岸貿易稅)ヲ拂戻スヘキ旨明記セリ
 肅州ニテ土貨ヲ買ヒ又ハ内地ヨリ土貨ヲ買入レ肅州ヨリ回國セントスル場合ニハ天津ノ例

通州張家
口土貨輸
出

洋品輸出

稅則

免稅品

ニ照ラシ稅餉ヲ完納セシム

(十一) 露商通州ニテ土貨ヲ販買シ陸路回國スルモノハ輸出正稅ヲ納メ張家口ニテ土貨ヲ販買
出口スルモノハ輸出半稅ヲ納ムヘシ但シ通州ニテ土貨ヲ買ヒ回國スルモノハ東壩ニ於テ通
告スヘシ

(十二) 露商天津、通州、張家口、肅州ニテ外國貨物ヲ買ヒ入レ回國スル場合ニ該洋品ニシテ既
ニ輸入正稅及子口半稅ヲ納付シタルモノナルトキハ何等別ニ課稅セラル、コトナシ但シ輸
入正稅ノミヲ納メタルモノナルトキハ更ニ子口半稅ヲ納ムヘシ

一般規則

(十三) 露國輸出入ノ貨物ニ對シテハ一般稅則及同治元年所定俄國續稅則ニ照ラシ納稅セシム
右兩稅則ニ載セザルモノニ對シテハ從價五分稅ヲ課ス

(十四) 陸路輸出入免稅品ハ如左

金銀塊、外國貨幣、各種穀粉、砂穀米(セーゴ)各種ノビスケット、肉類菓菜類ノ罐詰、牛奶酥
(チース)、牛油(コンデンス)シルク、バターヲ包括ス)蜜ミツ、餞メシ(菓子、珈琲、チヨコレット、胡椒、
小瓶卓鹽、醬油酢等ヲ包括ス)外國衣服(衣裳及其材料但シ相當ノ分量、靴、メリヤス、其他ノ
小間物ヲ包括ス)金銀首飾(頸飾、襟頭針、耳環、ボタン、香水瓶等ヲ包括ス)メツキモノ(金銀
皿ノ如シ)香水(香料等)外國石鹼、木炭、薪木、外國蠟燭、外國烟(日本タバコヲ除ク)外國捲
烟(捲烟入レ、烟夾、烟管等ヲ包括ス)外國酒(ビール、スピリット、曹達水、薄荷水等ヲ包括

禁制品

調印

ス)

家用雜物(客間、食堂其他ノ什物、玉突臺、煖爐、馬具、馬車等ヲ包括ス)船用雜物(港内停泊中
修繕用品)行李、紙筆墨(封蠟、印書機、タイプ等ヲ包括ス)外國氈(支那製、カーベットヲ除ク)
外國製毯(支那製ケットヲ除ク)鐵及物、外國製用藥料(外科用器、寫真道具等ヲ包括ス)玻璃
器皿(外國製陶器、磁器等ヲ包括ス)

但シ本章程内所載ノ各地及海口ヨリ内地ニ運往スル場合ニハ金銀外國貨幣行李ヲ除クノ外
從價二分五厘ノ稅金ヲ課ス(第十四條)

(十五) 銃砲彈藥、其他一切ノ軍器、食鹽、阿片ノ輸出入ヲ禁ス
米、銅鐵輸出ヲ禁ス

外國米穀及各種糧食ノ輸入ニ對シテハ免稅ス

(十六) 本章程ハ前顯伊犁事件ニ關スル露都條約ト同時ニ同處ニテ調印セラレ
(附屬)

光緒七年卡倫單

露國人カ境ヲ越ヘテ清國ニ入り得ル地點ヲ定ム(客ス)

(參照) 總稅務司出版條約集卷ノ一、八三頁但露文(ウラ)

特種條約彙纂二二八頁

第十二、鐵道貿易ニ關スル條約

甲、東清鐵道敷設ノ由來

光緒二十二年七月二十日附諭旨ニ基キ駐露清國公使許景澄ハ一、八九六年八月二十七日(光緒二十二年八月二日)「ベルリン」ニ於テ華俄道勝銀行(露清銀行)代表者「ロスタイン」及「プリンス、ウフトムスキー」ト東清鐵道ノ敷設經營ニ關スル契約ヲ締結シ其第十條ニ於テ該鐵道ノ運輸貨物ニ付左ノ通り規定セリ

通過貨物

凡ソ旅行者ノ手荷物及露國停車場ヨリ他ノ露國停車場ニ輸送セラル、商品ニ對シテハ何等關稅及内地稅餉ヲ賦課セス但シ此種ノ商品ハ手荷物ヲ除クノ外總テ特別荷車ニ積載シ清國々境ニ入ル時同地ノ清國稅關ニテ固封シ更ニ國境ヲ出ル時之ヲ檢査放行シ若シ途中開封シタルコト發見セラルレハ之ヲ沒收ス

輸出入品

此鐵道ニヨリ露國ヨリ清國ヘ輸入シ又ハ清國ヨリ露國ヘ輸出スル商品ニ對シテハ一般海關稅ニ照ラシ三分ノ一ヲ減稅ス

内地運往

若シ右輸入品ヲ内地ニ運往スル場合ニハ既ニ徵收サレタル輸入稅ノ半額ニ等シキ子口稅ヲ納ムヘシ然ルトキハ其後何等附加稅餉ヲ賦課セラル、コトナシ

國境稅關

清國政府ハ此鐵道ノ國境ニ接スル兩地點ニ於テ稅關ヲ設クヘシ
右契約實行ノ爲メ東清鐵道會社ナルモノヲ組織セント欲シ其條例ヲ定メ一、八九六年十二月十四日露帝ノ裁可ヲ經同八月同國大藏大臣ヨリ公布セラレタルカ同條例第三條末段ニモ右

同條ノコトヲ記載セリ

次テ一、八九八年九月二十三日(光緒二十四年五月七日)附諭旨ニ基キ清國特命全權大使許景澄及駐露清國公使楊儒ハ一、八九八年六月二十四日(光緒二十四年五月十八日)露都ニ於テ「ジグラー」「プリンス、ウフトムスキー」「ロスタイン」「アレキセイエフ」「コワン」ト東清鐵道支線布設經營ニ關スル契約ヲ締結シ其第五條ニ於テ大連稅關ノ設置同規則ノ制定並ニ本鐵道輸送貨物ニ關シ左ノ通り規定セリ

遼東半島租借地内大連稅關

露國ハ遼東半島租借地内ニ於テ自ラ稅則ヲ酌定ス

租借地ト清國內地トノ間ヲ出入スル貨物ニ對シ輸出入稅ヲ課スル爲メ清國ハ露國ノ同意ヲ經テ大連港開放ノ日ヨリ同地ニ清國稅關ヲ設置シ其組織及經理ハ同鐵道會社ニ委任シ清國ニ代ツテ收稅セシム而シテ同稅關ハ北京政府ニ直屬シ該代理人ハ定期其所辦事務ヲ報告スヘシ又清國政府ハ別ニ清國文官一名ヲ其代表者トシテ同地ニ派駐ス

通過貨物

旅行者ノ手荷物及本鐵道ニヨリ露國ヨリ租借地ニ來リ又ハ租借地ヨリ露國ニ赴ク商品ニ對シテハ一切ノ關稅及内地稅餉ヲ免除ス

輸出入品

本鐵道ニヨリ租借地ヨリ清國內地ニ入り又ハ内地ヨリ租借地ニ來ル商品ニ對シテハ一般海關稅ニ照ラシ輸出入稅ヲ課シ何等増減スルコトナシ
右契約ニ基キ東清鐵道會社ニ於テハ更ニ其條例ヲ追加シ一、八九九年二月五日ヲ以テ發布シ同條例中ニモ右同様ノコトヲ記載セリ

然ルニ日露戰役ノ結果露國ハ遼東半島租借地及寬城子以南ノ鐵道ヲ帝國ニ讓與スルコト、ナ
リタルヲ以テ南滿洲地方ニ關シテハ何等直接ノ關係ヲ有セサルコト、ナレリ依テ駐清露國公
使ハ清國外務部ト商議シ北滿洲ニ於ケル東清鐵道ノ兩終端ニアル滿洲里及綏芳河ノ兩所ニ於
テ清國稅關ヲ開設スルコト、ナシ一、九〇七年七月六日及八日(光緒三十三年五月二十六日及
二十八日)附外交文書ヲ以テ之ニ適用スヘキ章程ヲ議訂セリ

乙、露清議訂北滿洲稅關試辦章程

其要項ニ曰ク

- (一) 陸路通商章程及東清鐵道契約ニ基キ清國ハ東清鐵道ヲ以テ境界百清里以内ニアル各停車
場ニ運搬スル貨物ニ對シテ何等課稅セス
- (二) 鐵道輸送貨物ニ對シテハ三分ノ一ノ減稅ヲ爲シ且ツ其減稅區域ヲ限定ス例ヘハ哈爾濱ハ
停車場ノ周圍各十清里、海拉爾、齊々哈爾等ハ五清里其他ハ三清里ヲ境界トス
右貨物ヲ前記限界以外即チ内地ニ運出セントスルトキハ正稅ヲ補足ス即チ鐵道ニヨル輸入
稅(三分ノ二稅)ノ半額(三分ノ一稅)ヲ追納シ前後合計輸入稅ノ全額ヲ支拂フヘシ(此點ニ付
テハ爭議
キアリ)
- (三) 清國ハ露貨以外ノ外國貨物モ亦三分ノ一減稅ニ均霑スルコトヲ允シ(清貨以外ノ外國貨
物ヲ露國ニ輸出スルトキハ如何?)
- (四) 露國ハ有稅品ニ對シ海關新定稅則ニ照ラシ三分ノ一減稅スルコトヲ允ス但シ其他ノ稅務ニ

外國貨物
新稅則

百清里内
免稅

減稅區域

内地稅

雜件

關シテハ陸路通商章程ニ依ル
(四) 本章程ハ大略ノ規定ナレハ將來必要アレハ一年後再議規定ス稅關細則、界限劃定、及小停
車場地指定ノ件ハ速ニ兩國ヨリ派員商定ス

丙、滿洲里並綏芬河兩驛清國稅關試辦章程

在哈爾濱清國稅務司ハ署總稅務司ノ命ニ依リ光緒三十四年五月一日北滿洲稅關詳細章程八十
八條ヲ告示シ其内四ヶ條ハ尙未ダ露國政府ト協議ヲ了セサル旨附記セリ
其要項ニ曰ク

通 則

- (一) 清國政府ハ東清鐵道敷設契約ニ基キ滿洲里及綏芬河ニ於テ稅關ヲ設ケ哈爾濱稅關ノ節制
ニ歸ス其他赫勒洪德(Holhonts)及穆林兩驛ニ稅關監視所ヲ設ケ鐵道貨物ノ輸送ヲ監視シ
且ツ國境百清里(五十露里)ノ免稅地帶ヨリ運出スル貨物ニ對スル關稅ヲ徵收セシム
- (二) 本鐵道ニヨリ露領ニ入り又ハ露領ヨリ清國ニ入ル貨物ハ兩驛ニテ海關稅ノ三分ノ二ニ當
ル輸出入稅ヲ納ムヘシ
- (三) 兩稅關ニテハ各停車場區域ヨリ内地ヘ運往セラル、コトヲ届出ル貨物ヨリ左ノ稅率ニ從
ヒ内地通過稅ヲ徵收ス
- 一、各停車場區域ヨリ滿洲内地ニ運往スル場合ニハ内地通過稅ト海關稅ノ三分ノ一即輸

内地通過
稅

輸出入稅

稅關及監
視所設置

入減税ノ半額ヲ納ムヘシ

一、各停車場區域ヨリ清國本部へ運赴スル貨物ハ輸入正税ヲ納ムルノ外尙其半額ニ當ル内地通過税ヲ納ムヘシ

五十露里内輸入

(四) 兩驛其他國境五十露里内ニアル各停車場ニ仕向ケラル、貨物ハ免税地帯ニ輸入セララル、モノト假定シテ一應無税ニテ其目的地ニ輸送セシム

適用條例

(五) 兩驛税關ハ一、八八一年(光緒七年)ノ伊犁事件ニ關スル露都條約及其附屬陸路通商章程一、八九六年(光緒二十二年)締結東清鐵道敷設契約、一、九〇七年七月(光緒三十三年五月)付外交文書即チ北滿洲税關試辦章程ニ記載スル四原則及ヒ一、九〇七年十月 日付追加外交文書、本暫行試辦章程、並ニ清國總稅務司ノ一般訓令ニ準據シ一切ノ稅務ヲ執行スヘシ又滿洲里税關ハ開放地内ニアルヲ以テ清國政府ト他外國間ニ訂結セララル諸條約ニモ準據スヘシ
(六) 荷主又ハ代理人不在ノ場合ニ稅關手續ヲ濟マス爲メ東清鐵道ハ兩驛ニ報關所(稅關代辦所)ヲ設ク

稅關代辦所

輸入規則

(七) 國境五十露里内ニアル地點ニ仕向ケラル、貨物ハ其中ニ清國輸入禁制品ヲ包マサルノ證明ヲ受ケ即時無税通關ヲ許サル

五十露里内輸入

(八) 五十露里以外ニアル土地他ニ仕向ケラル、貨物ハ檢査ノ上有税品ナラハ輸入税ヲ徵收シテ通過セシメ又五十露里無税地帯内ノ一停車場ヨリ其以外ノ土地ニアル停車場ニ仕向ケラル

五十露里外輸入

五十露里内ヨリ以外ニ輸送

、貨物ハ赫勒洪德驛又ハ穆林驛稅關監視所ニ於テ檢査ノ上有税品ナラハ課税シ通關セシム
(九) 納税濟貨物ニ對シテハ受領證ヲ與ヘ三年間有効トス

受領書ノ有効期間

輸出規則

(十) 清國輸出税ハ清國內ヨリ露國々境百清里即五十露里免税地帯外ノ露國停車場ニ向ケ發送セララル、貨物ニ對シテノミ之ヲ賦課ス

清國輸出税

(十一) 滿洲ヨリ發送スル貨物ハ最初清國稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ輸出税ヲ納メ而シテ後該貨物ハ更ニ露國稅關ニ移ツレ露國ノ稅則ニ據リ輸入税ヲ課セラル(清國內ヨリ露國々境五十露里ニ入ル鐵道貨物ニ對シ露國ハ輸入税ヲ免除スルヤ?)

露國輸入税

通過規則

(十二) 露國ノ一地方ヨリ滿洲ヲ通過シ他ノ一地方へ鐵道ニ由リ輸送セララル、貨物ハ輸入停車場ニテ露清兩國稅關ノ附シタル封印完全ナルトキハ無税通關セシム

免税通過

(十三) 貨物カ不足シ又ハ證明ト相違スル場合ニハ清國稅關ハ其理由ヲ慥マル迄該貨物ヲ抑留シ若シ鐵道會社ノ不都合(又ハ取締ノ不行届)ニ基クコト證明セラレタルトキハ其殘有貨物ハ沒收シ(尙紛失セシ有税貨物ノ税金ヲ鐵道會社ヨリ徵收ス)但シ本條中括弧内未タ協定ニ至ラサルカ如シ)

罰則

再輸出規則

拂戻

(十四) 鐵道ニ依ル外國品ノ再輸出ニ對シテモ一般海關稅則ヲ適用シ輸入稅ヲ拂戻スヘシ但シ輸入後三年ヲ經過シタルモノハ此限ニ非ス

四十四

免稅品

免稅品及禁制品規則

(十五) 露國ニテハ一、八八一年(光緒七年)改訂露清陸路通商章程第十四條ノ規定ヲ一般商品ニモ準用セント主張シ清國ニ於テハ同免稅品ノ規定ハ只個人ノ自由品ニノミ適用スヘキモノナリトテ之ニ反對シ未タ協定ニ至ラス

禁制品

(十六) 改訂通商章程第十五條ト同シ

(尙此外旅客手荷物、小包郵便等ニ規定アルモ畧ス)

西藏印度間ノ境界並ニ通商ニ關スル條約